

2020/02/26(水)14:33

授業科目名	社会調査法		授業形態	講義
英語科目名	Social survey method		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	土屋 久		ナンバリング	4201
科目担当者				
土屋 久				
授業の概要				
<p>社会調査法は、社会科学の研究方法の一つであり、社会事象を実証的に捉えるための調査方法である。本講義では、社会調査法の歴史、目的、基本的な事項を学習し、その実際の手順を自己のものとしていく。それと同時に、単に方法を学ぶだけでなく、社会に対する関心を高め、変動の激しい現代社会を理解するための感性を磨くことをその目的とする。授業では、講義と実習を交えて進めていく。講義では、多くの具体的な事例を紹介する。</p>				
授業の達成目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の基本を獲得できる。 ・社会調査の基礎的な概念を習得することができる。 ・上記と関連して、社会調査の技法を用いて、社会事象を実証的に捉えることができる。 				
成績評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・試験の内容 試験前の授業で説明をおこなう。客観テストと論述テストから構成される。 ・成績評価の内訳 レポート70%、期末テスト30%を予定。 				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>社会のさまざまな事象に興味・関心をもつ学生の受講が望ましい。 授業では、学生諸君の積極的な授業参加を求める。授業中に、諸君の発言を求めることは当然あり、また、毎授業、リアクションペーパーの提出を求める。</p>				
テキスト・参考書				
<p>テキスト: 使用しない。授業内にプリント配布。 参考書: ①『新・社会調査へのアプローチ? 論理と方法』ミネルヴァ書房 ②『社会調査法入門』有斐閣 ③『フィールドワーク 書を持って街に出よう』新曜社</p>				
オフィスアワー				
授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却予定。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	土屋久	履修にあたっての諸注意(授業の進め方、評価の方法、勉強の仕方等) 社会調査の概略	【予習】シラバスをよく見てくること。(90分) 【復習】講義内でわたしたちのプリントを見直しておくこと。講義で扱う内容をよく検討しておくこと(90分)	
2	土屋久	社会調査とは何か?(その目的や意義等)	【予習】ギャラップなどの世論調査について調べてくること。(90分) 【復習】講義の内容をよく復習しておくこと(90分)	
3	土屋久	社会調査の歴史と種類	【予習】中学・高校で学習した18世紀以降の歴史を、大雑把で構わないので、見直しておくこと。(90分) 【復習】講義の内容をよく復習しておくこと(90分)	
4	土屋久	量的調査の概要	【予習】統計について、中学・高校で学習した内容を復習しておくこと(90分) 【復習】講義の内容をよく復習しておくこと(90分)	

2020/07/29(水)15:52

授業科目名	量的調査演習		授業形態	講義
英語科目名	Quantitative Research Methods		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	大槻 茂実		ナンバリング	4202
科目担当者				
大槻 茂実				
授業の概要				
<p>食材（データ）が悪ければ、いかに優れた調理（分析）を実施しても満足のいく料理（アウトプット）は得られない。</p> <p>例えばあなたがSDGsの解決に向けた何かしらの政策提言を試みたとして。そうした提言に説得力をもたせるために「適切なデータ分析」にもついた「適切なアウトプット」が必要なのは想像に難しくない。そうでなければ、あなたのアイディアに反対する者を説得することなど到底できないからだ。しかしながら、「適切なデータ分析」を行うためには、そもそも「適切なデータ」が入手できなくてはならない。結局のところ、「適切なアウトプット」を行うためには「適切な社会調査」の実践が必要不可欠なのである。</p> <p>この授業では量的調査を重点として社会調査法を学ぶ。量的調査、量的分析のプロセスを通して、ロジカルシンキングのエッセンスを習得することとなる。このプロセスでは、エクセルやSPSSをはじめとした表計算・統計ソフトを駆使するので、授業時間外での自主的な取り組み必須となる。この点をあらかじめよく自覚して履修することを求める。</p> <p>なお、質的調査と量的調査は表裏一体の関係であることから、本授業では質的調査についての学びも同時的にすすめていく。同時期開講の『質的（フィールド）調査演習』を履修することを強く推奨する。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何かを他者に説明できる。 2. データの管理にエッセンスを他者に説明できる。 3. 調査票の作成において基本的な知識を説明できる。 4. データを集計し、基礎的分析ができる。 5. 社会調査の課題を説明できる。 				
成績評価方法				
定期試験と授業内課題により評価する。評価基準は定期試験60%、授業内課題30%、総合判定10%。				
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修希望者が多すぎる場合には適切な授業運営上抽選をすることがある。 2. 本授業の内容は『質的（フィールド）調査演習』と連動する部分が多いため、履修希望者は本授業と合わせて『質的（フィールド）調査演習』を履修することを強く推奨する。 3. 本授業はエクセルとspssを授業中に頻繁に使用する。特にエクセルについては予習・復習課題をこなす上で積極的に使用することが求められる。その覚悟をもって履修をすること。 4. 学生の理解度により授業内容や授業構成が変更されることがある。またコロナウイルス対応の点から大幅な変更を行う可能性がある。このことをあらかじめ知っておくこと。 				
テキスト・参考書				
<p>本授業では教科書の指定はしない。しかし、授業内容をさらにすすんで学びたい学生には下記の文献をお薦めする。</p> <p>ボンシュテット&ノーキ、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』（ハーベスト社）</p> <p>林拓也『（改訂版）社会統計学入門』（放送大学教育振興会）</p>				
オフィスパワー				
基本は月曜日12:10~12:50。時間外でも対応します。ただし、いずれの場合も必ずメールでアポをとってください。				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法				
J-passのクラスプロフィール機能を使用して行う。その他の場合には、授業内で指示する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）	
1	大槻 茂実	暮らしの中の統計学	<p>【予習】本授業のシラバスを精読し、記述統計とは何かを調べておくこと（90分程度）</p> <p>【復習】授業内で指示する（課題所要時間は90分程度）</p>	
2	大槻 茂実	データの基礎集計①変数の種類	<p>【予習】変数とは何か、調べて言語化しておくこと（90分程度）</p>	

2020/07/29(水)15:50

授業科目名	質的(フィールド)調査演習		授業形態	講義
英語科目名	Applied Quantitative Research Methods		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	大槻 茂実		ナンバリング	4203
科目担当者				
大槻 茂実				
授業の概要				
<p>食材(データ)が悪ければ、いかに優れた調理(分析)を実施しても満足のいく料理(アウトプット)は得られない。</p> <p>例えばあなたがSDGsの解決に向けた何かしらの政策提言を試みたとして。そうした提言に説得力をもたせるために「適切なデータ分析」にもついた「適切なアウトプット」が必要なのは想像に難しくない。そうでなければ、あなたのアイディアに反対する者を説得することなど到底できないからだ。しかしながら、「適切なデータ分析」を行うためには、そもそも「適切なデータ」が入手できなくてはならない。結局のところ、「適切なアウトプット」を行うためには「適切な社会調査」の実践が必要不可欠なのである。</p> <p>この授業では質的調査を重点として社会調査法を学ぶ。質的調査は科学的ではないといった批判がある。こうした批判はある点において妥当であり、ある点においては的外れでもある。本授業の履修者は、このような批判を相対化した上で適切な質的調査を実践する上での要点を習得することとなる。</p> <p>なお、質的調査と量的調査は表裏一体の関係であることから、本授業では量的調査についての学びも同時にすすめていく。同時期開講の『量的調査演習』を履修することを強く推奨する。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何かを他者に説明できる。 2. 社会調査における倫理を他者に説明できる。 3. 質的調査の方法的意義を他者に説明できる。 4. 質的調査を実践する上で事前準備を他者に説明できる。 5. 社会調査の課題を説明できる。 				
成績評価方法				
<p>定期試験と授業内課題により評価する。評価基準は定期試験50%、授業内課題40%、総合判定10%。</p> <p>定期試験はレポート形式となる可能性があることをあらかじめ知っておくこと。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修希望者が多すぎる場合には適切な授業運営上抽選をすることがある。 2. 本授業の内容は『量的調査演習』と連動する部分が多いため、履修希望者は本授業と合わせて『量的調査演習』を履修することを強く推奨する。 3. 本授業は授業時間外に家族や友人に対するインタビュー調査の実施を求める。このことをあらかじめ知っておくこと。 4. 学生の理解度により授業内容や授業構成が変更されることがある。またコロナウイルス対応の点から大幅な変更を行う可能性がある。このことをあらかじめ知っておくこと。 				
テキスト・参考書				
<p>本授業では教科書の指定はしない。しかし、授業内容をさらにすすんで学びたい学生には下記の文献をお薦めする。</p> <p>Earl R. Babbie『The Practice of Social Research』(Wadsworth Pub Co)</p> <p>ウィリアム・フット・ホワイト『ストリート・コーナースサエティ』(有斐閣)</p>				
オフィスアワー				
基本は月曜日12:10~12:50。時間外でも対応します。ただし、いずれの場合も必ずメールでアポをとってください。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
J-passのクラスプロフィール機能を使用して行う。その他の場合には、授業内で指示する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	大槻 茂実	社会調査の目的	<p>【予習】本授業のシラバスを精読し、社会調査とは何かを調べておくこと(90分程度)</p> <p>【復習】授業内で指示する(課題所要時間は90分程度)</p>	

